

山田みやこの活動報告

平成30年6月30日(土)

第36回民ボラ in 栃木に参加

民ボラとは、民間でボランティア活動を推進している全国の団体が民間性を中心に置き、民間の独創性、独立性を守りながら行政等との公私協働や、市民に対してどのような役割をはたしていくかという視点で開催されている。

今回は宇都宮大学のUUプラザにて開催。

テーマは**排除／包摂**とSDGs(持続可能な開発目標)

社会的包摂をどう進めるか

～若者の闇／閉鎖／排除ー不寛容な社会に立ち向かう～

枝見太郎氏(富士福祉事業団)

大学生はボランティア活動に対して、準備されたものに参加する。自分で考えての活動ではない場合が多い。自分で決めなければ何もできない、自由が怖い、責任が自分にある。

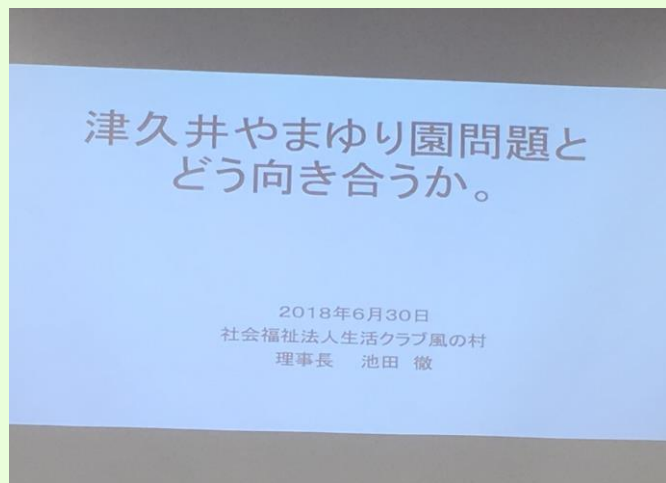
所属する場所がある学生は活動できるが、孤立する学生(不登校)が増えている。大学が苦しい、社会から排除されることになる。自殺者年間3万人を切ったが、変死は10万人になる。

中野謙作氏(一般社団法人若年者支援機構)

行き場のない若者は、経済的に困窮・将来に希望が持てない・凶悪な事件が起きると共感する・人に失望・自分をもっと分かってほしいと怒り続ける。直接会って話を聞いてほしい、心の中をしっかりと見てほしい、伴走する支援者がほしい、そんな訴えがある。

横田能洋氏(茨城NPOセンターコモンズ)

少数派は我慢しろという社会だが、社会のしくみやルールを変えれば生きられる。



第36回 民ボラ in 栃木

… ボランティア・市民活動団体の心・技・体を学ぶ
全国ボランティア推進団体会議(民ボラ)
6/30-7/1 (土・日) 宇都宮大学

テーマ: **排除/包摂** と **SDGs**

- 若者がアブナイ、南無阿彌陀仏、相模原障害者大量殺傷事件、「自衛は権利だ」と主張する普通の学生たち…
- 若い世代の心の闇と正体と、闇の現れとしての事件(現象)について「私たちは何を、どうすればいいの?」を考え、社会から排除される外国人の若者、障害者、日本の若者…の社会的包摂について討論する。
- 企業活動の「グローバル化の果」の行動変化として、SDGs(持続可能な開発目標)が今年から実行する。公共の課題は、国家が解決を担保するものではなく、企業も含めた民の多様な主体が地域の持続可能性を作っていく社会に変化しつつある。
- 経済の枠を超えた世界の連携を、ローカル発=栃木のSDGsの実践報告とともに考える。

全国ボランティア推進団体会議(民ボラ)とは…
…全国から団体が大阪に集まり、1983年にスタート! 36回目。

民ボラは1983年、民間でボランティア活動を推進していた全国の4団体22人が大阪に集まり、「第1回民間ボランティア推進団体協議会(産学協賛会)」として結成されました。当初は志を同じくするものが情報交換と交流の場を広げようという目的で開催されましたが、その後、目を惹くことに長期的なテーマについて議論するようになり、協議会から研鑽会的な発展を遂げ込むようになり、現在に至ります。全国有志の団体の参加が定着して定例の開催になっています。

この会の大きな特色は「民間性」を重んじること、民間の自主性、独立性を守りながら行政等との公私協働や市民に対してどのような役割をはたしていくかという視点を重視されています。

主催: 第36回全国ボランティア推進団体協議会実行委員会 共催: 宇都宮大学 後援: SDGs市民社会ネットワーク
●協賛団体/主催 NPO 事業サポートクラブ、群馬県ボランティア協会、大塚ボランティア協会、茨城 NPO センター・コモンズ、富士福祉事業団、東京ボランティア・市民活動センター、山形県ボランティア協会、世田谷ボランティア協会、いたしし総合ボランティアセンター、JUN 協賛/共催、とちぎボランティアネットワーク